

DOJIN
R18
成人向け

出品禁止です！

オークション

Detective Conan
AKAI♥CONAN
AMURO♥CONAN





次の商品は
本日の大目玉！

——さて
盛り上がって
まいりました

見た目は
ただの
子供ですが

ただの子供と
あなどる
なかれ！

ここ
どこだろう…

この子供
この小さな身体で
なんと既に射精
できるんです！

おお…

本当か？

あんな
子供が…？

逃げないと…

はあ

ハッ

ざ

わ



身体が熱い…

知らない
人の手で…



おお：
本当に
射精したぞ

知らない
人たちの前で

あんな
子供が—

後ろだけで…

気持ち悪い
はずなのに…

はあ
はあ

一千万から
スタートです

二千万

三千万

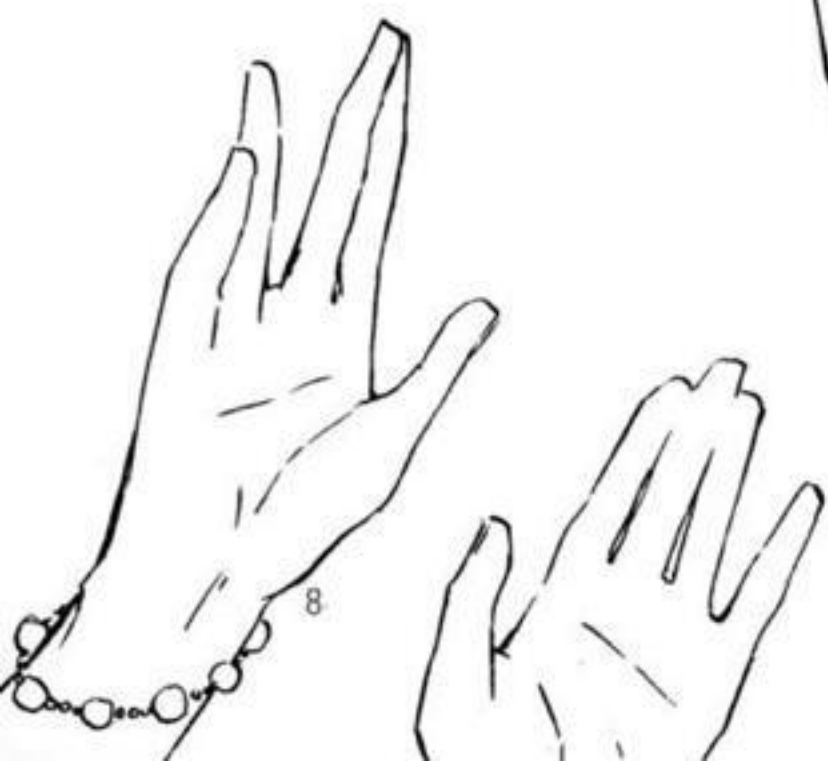
四千万

——それでは

気になる
こちらの
具合は

落札者様自身で
お確かめください

頭がボーっとして
何も考えられない！
……





一億



一億円！
さあ他には
いらつしやい
ますか？

二億

ちよ：ちよつと
降谷さん：ッ

まあ、
どうも

二億五千

三億五千

四億

五億五千

六億

六億五千

赤井さんと
安室さんの
声が聞こえる
気がする……

はあ
はあ

よろしいですか？
それでは
十億で落札——…

…十億

ちよ……待て

十億ごせ……





4
ツ

あ、降谷さん！
こっち手伝って
くださいよー

勝手に来た
ていまして
おきます
から！

このままだと
FBIに全て
手柄を持ってかれて
しまいますよ

いいか
FBI!
コナン君に
変なコトしたら
タダじゃ
済まないからな!

変なコト
とは？

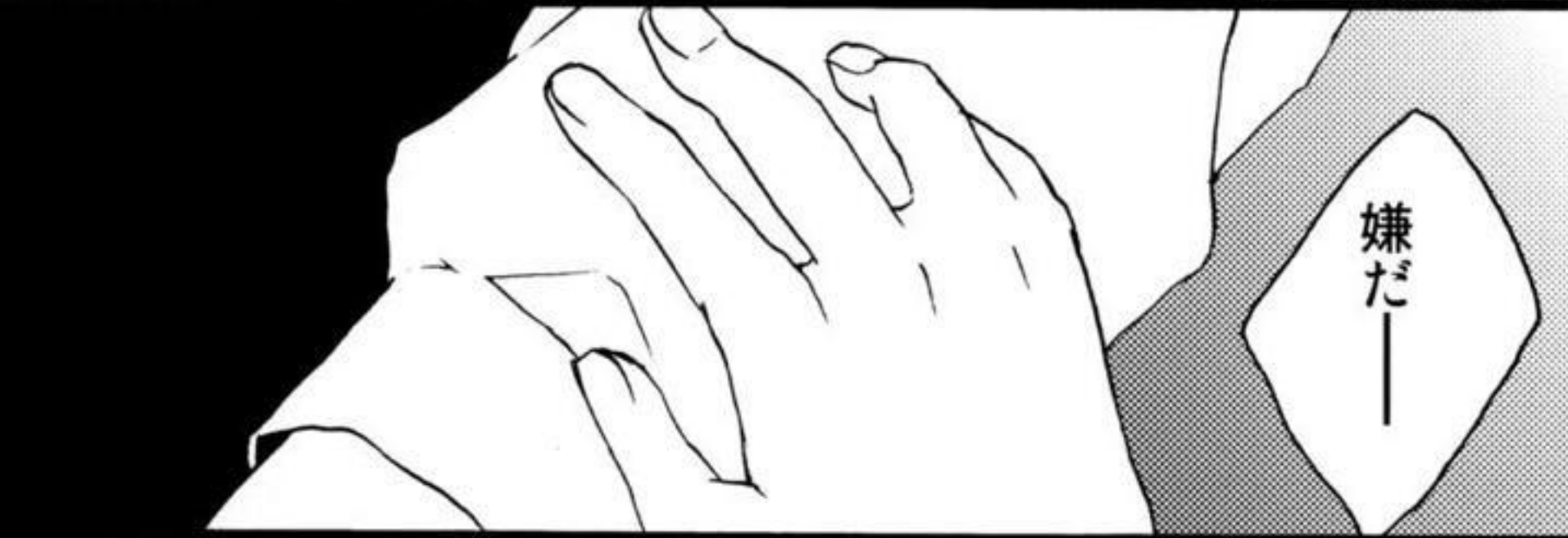
うるさい
黙って
コナン君を
守ってろ！

今日も
ハッピーな一日だよ...

あ
：

あかいさん……

はあ
はあ





赤井さん
もつと：ッ

ぼう

どこも
かしこも
敏感だな

薬の
せいかな？

もつと奥
ずぶずぶって
して…



赤井さんが
欲しい

挿入れて
欲しいか？



挿入れて
欲しいなら
ナカに
入ってるモノ
一人で外に
出してみろ

手を使わずに
全部出せたら
挿入れてやろう



びっ...

びびびび

びびびびびび

びびびびびび

びびびび

びび
ちゅ

びび
ちゅん

はあ
はあ
はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ:

あ、赤井さ:
全部
出せたよ

はあ

ああ
よくできたな

約束だ

スリ

スリ

てゃー
ああッ

あ、
あかいさッ

前からが
いい...

赤井さんの
顔見たい...ッ

フッ



はっ

ギッ

ひゃッ

グリン

あ

ん

ギッ

ズズ

ん
♡ あ ♡
♡ あ ♡
♡ あ ♡
♡ ッ

ズ

ズ

ぐぐ

ぐぐ



はあ

うん：
赤井さんの
きもちい：

カチャ

奥まで
きてるの
きもちいよお

はあ

もつと
ずぶずぶ
してえッ

はあ

あ



ズカ

ズカ

ぐ

コナン君を
守ってろって
言ったのに
お前が真っ先に
襲ってどうするんだ！

これには
深い訳がだな：

言い訳は
結構

早く
コナン君の
ナカから
出て――

：安室
さん？

今度は
安室さんが
入れるの？

こ…
コナン君…？

ズムリ



僕まだ身体が
すっごい熱くて：

コナン君!?

ちよつと
硬くなってる

だから
安室さんのも
ちよーだい？

ちよつと

くっ

ちよ

ハッ

ハッ

ズ

はあ：

じゅぶ

ガッ

コナン君：

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



おあーッ

一本不
当続

言い争っている
時間が惜しい
ので……ッ

みち
みち

ずず

みちち

あう

はあ

すぐくキツイけど
二人のガナカでい
擦れて気持ちいい――

いっ
ちや・

あ

三

7/10

ダッ

卷

五三

いい
ぐ：
う：
ツ





本当はFBIが外で突入準備する時間稼ぎだったんだけど(安室は知らない)ガチで競り合ってしまった二人です。

「オークションで落としたコナン君を持ち帰る緋色コの話」

葉月りさ

コナンが誘拐され、薬物で敏感な身体にさせられて、オークションにかけられた。

その情報を掴んだのは、彼の誘拐には最も早く気づき捜索していた安室ではなく、独自の捜査をしていた赤井だった。どこのルートからこの闇オークションを知ったのか。場合によってはあのFBIも逮捕してやることになるだろう。

赤井と二人、オークションに忍び込んで落札価格を競り上げて彼を落とした。最終的に有り得ない数字が会場内を飛び交ったのは見ものだっただろう。ついつい赤井も安室も頭に血が上った。

普段であれば、意志の強さを感じさせる透き通ったブルーの瞳は、何も映さずぼんやりと宙を彷徨った。抵抗する間も無く薬剤を投与されたのだろう、熱を抑えることが出来ず観客に媚びた視線を送った。

全裸で何もまといっていない滑らかな肌を晒しながら、後孔には無機質なローターを突っ込まれ、それがいいところを刺激するたびに恍惚に喘いだ。

違法オークションの司会者曰く、彼はこの年齢にして射精をすることが出来るのだという。現に観客の前で確かに射精するところを披露してみせた。会場内が色めき立った。

通常男の第二次性徴は、早くても8歳頃からだ。それに伴って精液は作られるようになる。小学一年でそれは早すぎといえた。

しかし何の疑問も抱いた様子はなくコナンを見つめていたということは、彼はコナンの何かを知っているということだ。正直腹立たいいが、今はどこでもない。

競り落としたコナンを引き取ると、この会場の近くに控えている風見に連絡をした。程なくして公安の捜査官達がこの会場にいる人間を一人

残さず検挙することになるだろう。

安室に抱きつき猫のように甘えるコナンを連れて、既に手配していたホテルのスイートルームに入ると、ベッドに彼を下ろした。柔らかなシートの上に、サイズの合わないシャツを纏っただけのコナンの痴態が、惜しげもなく晒された。

「安室さん、お願い。触って」

「仰せのままに」

身体中を撫でまわしながら、性感帯を刺激してやれば、甘い声を上げて彼は悦んだ。

「ボウヤこっちもだ」

「赤井しゃ、……く、ふう……んっ」

コナンの小さな顎を掴み、引き寄せて口を塞いだ。口内を舌で犯されて、息苦しげにしながらもその目は蕩けていた。

安室の手がコナンの下半身に伸びた。そこにはローターが入ったままだった。コードを掴んで一気に引き抜いてやれば、思わず悲鳴を上げた。

「ひうっ！」

「すごい。とろとろだ」

つい直前までローターが収められていたそこは、すでにこれでもかというくらいにふやけていて、安室の指を温かい粘膜が包んだ。

「……っん、う、っは、あぁーっあっ」

「ここ、きもちいい？」

「あ、あ、あ」

前立腺をダイレクトで刺激されて、あまりの衝撃に軽く達してしまつた。ひくつく中を安室は更に責めたてた。

前立腺を掠めるたびに頭が真っ白になるほどの快感が駆け巡って、大げさなほどに腰が痙攣した。

「あむろさっ！」

「どうしたのかな、コナン君」

「ほしいよう、もっと大きいのでめちやくちやにしてえ」

その言葉が意味することは、彼は安室のものを受け入れたいと言うこ

とだった。安室は上機嫌で自身の性器を取り出し、熟れた蕾にびったりとあてがった。熱いその感覚にコナンが「あ……っ」と息を漏らす。

「あむろさん、まって」

「待ってって、ここまできて待てはできないよ」

もう限界だ。少し押し付けてやれば、とろとろのそこはいくらでも飲み込んでくれそうだ。

「あかいさんも、一緒に」

「ホー……」

コナンの胸元を弄繰り回していた赤井が、驚いたように感嘆の声を上げた。流石にこの雰囲気では安室が先に挿入するだろうと思っていたようだが、コナンの思わぬ誘いに口角を吊り上げた。

「俺達二人とも欲しいのか。随分と欲張りな子だ」

「ほしいのっ！中にいっぱいちょうだい」

「だそうだ」

この子が何を望んでいるのか悟った二人は、視線を合わせた。

コナンを抱き上げると、安室は仰向けになりそり立ったものの上からコナンを落とした。

「——あッ、ああアあッ！」

ぬぷぬぷとぬれた音をさせながら、肉壁を掻き分け入っていく。強烈すぎる衝撃にコナンは声にならない悲鳴を上げながらも、その顔は恍惚としていた。ようやく根元まで挿入させると、呼吸が安定するのを待って、前傾姿勢にさせた。

安室の逞しい胸板に密着したコナンは、安心したようにうつとりした顔で縋りついた。その瞬間背後から尻を掴まれたかと思うと、もう一本が入ってきて、そのあまりの衝撃にコナンの小さな身体が痙攣した。

「あ、あ——……っ！？」

「狭いな」

「そりゃあそうでしょう」

ただでさえ狭い中に、二本も入っているのだ。普通じゃない。

赤井は白い両脚を腕に抱えろとがんがんと奥を抉るように杭を打ち込

み始めた。安室もまた下から突き上げた。

「ああ……っ、あ……！」

二本の楔がバラバラに動かた際に、開きつばなしの口から喘ぎ声が漏れて、口端からは飲み込めなかった唾液が溢れた。触れていなかった前も、だからだと白濁が溢れている。

「きもちいい……きもちいいよう」

感じ入るように、コナンは声を漏らした。

中がひくひくと痙攣を始めた。絶頂が近い。

ラストスパートとばかりに二人に最奥を穿たれて、コナンは両手を安室の首の裏に回して自らも本能に任せて腰を振った。

「あ、いくつまたいつちゃ——っ！」

「っ！」

一際甲高い悲鳴を上げて、コナンは達した。背中を弓なりに反らせて、安室の腹の脇にあった両足がピンと伸ばされた。自らの性器が弾けて、腹部を白濁で汚した。

赤井も安室も、強く締め付ける中で達し、痙攣を繰り返す内壁に熱い飛沫を放った。

事後の雰囲気漂う空間で、コナンは微笑んだ。

「助けに来てくれてありがとう」

それから。

「いっぱい愛してくれてありがとう」

終

Detective Conan
Unofficial Fanbook
Akai Syuichi × Edogawa Conan
Amuro Toru × Edogawa Conan

2016.10.09
おりご豆/末廣よしゆき
origotoh@hotmail.co.jp
印刷：ラック出版様

※無断転載・データ化・
ネットオークション・フリマアプリへの出品禁止
ヤフオク・メルカリなどでの取引を見た際には
全力で呪いにいきます

葉月りさ様！！
忙しい中ゲストしてくださりありがとうございました♥

オークション出品禁止です！
2016.autumn
by origotoh